

中瀬 有紀



The Bridge Project presented *Richard III* by William Shakespeare, with Kevin Spacey, directed by Sam Mendes, on July 29, 2011, 21:00 at Ancient Theatre of Epidaurus

今年の夏を私はギリシャで過ごしました。ギリシャ滞在の目的は色々あり、西洋舞台芸術発祥の地であるギリシャを訪れる事で西洋演劇の理解を深める事、またディオニュソス劇場で一日の太陽の動きを観測し、古典時代に舞台がどのように照らされていたかを調査する事、そしてヘロデス・アティコス音楽堂でアテネ・エピダウロス・フェスティバルを堪能する事などでした。ただ本当のところは、ギリシャが何かを伝えるために私を呼んだような気がしています。

最初にギリシャが私に見せてくれたのは、歴史の層です。岩山の頂上にそびえ立つアテネのアクロポリスをはじめ、古代アテネの墓地であるケラミコス、サントリーニの火山噴火がもたらしたアクロティリ、そして断崖の地層が伝える多くの地震の爪痕を前にして、先史時代から現代までギリシャが負っている多くの死から私は目をそらす事ができませんでした。

その歴史の層の上に立つ人間を照らし続けているのが「太陽」です。ギリシャ文化は太陽と共にありました。特に日の出の重要性は多くの事実に見る事ができます。お寺

古代テイラの風のように 過ぎゆく時間の中で

の入場口は常に東である事、ディオニュソス劇場の下手入場口は東向きである事、古代ギリシャ演劇公演の際に下手／東がアテネ出身のコーラス、上手／西が地方出身のコーラスの入場口であった事、そして埋葬の際、起き上がった時に日の出が見られるよう西枕に寝かされる事など、これらの事実はギリシャの文化が太陽と共に始まり太陽と共に生きている事を証明しています。

多くの死を負いながら、西洋と東洋の間で様々な文化の影響を受け常に変わり続けるギリシャが私に伝えた事は、全てが有限であるという事実です。太陽にさえ終わりがあり、遙か彼方の過去の光である満天の星空のように、いつの日か終わりを迎えた後の太陽の光が地球に届きます。過去と未来の縦のつながりと、あらゆる生命と物質との横のつながりの中で生きる人間は、「今」を舞台に刻みました。生きるという事は死を知る事であり、舞台芸術は自分たちがいま生きている事を認識し合う行いだとすると、照明デザインは日の出の喜びを分かち合うために必要とされている仕事と言える…そんな事を考えながらNYに戻りました。